

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。神戸女子大学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。新入生のご家族の皆様にも、心からお慶び申し上げます。本日ここに 915 名が神戸女子大学に、また 24 名が神戸女子大学大学院に入学しました。

皆さん、ようこそ神戸女子大学へ。私たちは、皆さんとのこの出会いを大切にし、皆さんが十分に満足のいく大学・大学院生活を送ることができるよう、全力を尽くすことをお約束します。

神戸女子大学は、来年、前身の神戸新装女学院から数えて 80 周年を迎えます。大学開学から 54 年目の春を迎えました。学園の卒業生は 20 代から 90 才を超える方々まであらゆる年代にいらっしやり、その数は 7 万人を数えます。大学の一期生も 70 才代となられ、卒業生は 3 万人を優に超えています。これらの方々は、今、社会や地域、あるいはご家庭で大いに活躍されています。皆さんは、そうした分厚い本学卒業生の方々の中に、今後の大学生活を経て加わっていくのです。本日皆さんはそのスタートラインに立ちました。可能性に満ちた未来に向かって、さあ元気に歩みだしてください。

さて、今月いっぱいまで平成時代が終わります。そして、来月から新しい令和時代が始まります。科学技術は日進月歩ですが、その成果、とくに生命科学の進歩や情報革新に加え、人口構成、国際情勢、世界経済の変化に伴い、私たちを取り巻く環境は大きく変化することが予想されます。今回の皇位継承はまさにその象徴となっています。

例えば、人工知能(AI)技術の発達により、私たちの仕事は今後大きく変化するとされています。AI がやれる仕事は、おそらく劇的に、人から機械へ移っていきます。人間が行う仕事は、AI ができない仕事に限られてくるといっても過言ではありません。その結果、今ある花形の職業のいくつかは、皆さんがまだ40才にもならない20年先には無くなっている可能性があります。その一方で、新しい職業が次々に現れるでしょう。そうした中、私たちは自分の頭で物事をしっかりととらえ、新しい時代に即した生き方をしていく必要があります。

加えて、今、時代はますます不確実なものになっています。世界では、政治家やマスコミを巻き込んで、お互いの情報をフェイクニュースと言いつけ合う事態となっており、日本でも、飛び交う情報を果たしてそのまま受け

入れてもよいものか、と考えさせられる出来事が数多く発生しています。先日お若い皇族の方が、ご親族のご結婚に関してマスコミに尋ねられたとき、「メディア報道に関しては、信頼性や意図などをよく考えることが大切」と述べられました。まさにそのお言葉の通りです。メディアのみならず、もしかすると国の省庁が提供する統計や会議録に至るまで、様々な情報に対して私たちは何が本当なのかをそれぞれ自分自身の頭で考えていく必要性が高まっています。イギリスの国民投票で EU 離脱が決まったあとに、イギリス国内のネットで最も検索された言葉が実は EU だったという話を聞きますが、EU のことをよく知らないまま投票したことに後悔している人が数多くいる、ということ、私たちは他山の石としなければなりません。

そうした激動の、そして不確実な時代にしっかりと生きていくために、自分の子供や親、家族など愛する人たちを守っていくために、私たちは、皆さんに、自立心、対話力、創造性を身につけてほしいと考えています。そして、その土台となるのが、家政学、文学、健康福祉学、看護学、それぞれの分野において、学問をすることなのです。

それでは、これからの大学生活で皆さんに身に着けてほしいこれら 3 つの事項と学問の関連について少し解説したいと思います。

まず、自立心ですが、これを持つためには主体性を身につけなければなりません。主体性とは「自分の頭で考え抜いて、自分の発言や行動に責任をもつ」ことを示します。例えば、遠い将来、息子と称する人から突如大金が必要になったと電話がかかってきたとします。あるいは、本来必要のない高価なものを今ならとてもお安くしておきますよ、と強く勧められたとします。また、選挙での投票をはじめ、さまざまな事柄を判断しなければならない時も今後数多くあるでしょう。そうしたとき、私たちは主体的に行動する必要に迫られます。すなわち、まずは根拠となる事実やデータの正当性をしっかりと見極め、そこから相手が、あるいは自分が導き出す推論の合理性を判断する、つまり、根拠のない不安か安心ではなく、好きか嫌いかでもなく、正しいか正しくないかを自分でしっかりと判断しなければなりません。その訓練に最適なものが、学問です。

また、対話力ですが、コミュニケーション能力の必要性は言うまでもありません。ですが、単に、少し勇気を出して、人に話しかけ、とりとめのない話をし、みんなと仲良くなりました。もちろん、それもとても大切ですが、それだけではいけません。やはりここぞというときには、話の内容が重要です。そこには、幅広い、そしてそれぞれの得意分野ではとても深い、知識と、それに基づいた自らのしっかりとした考え方が必要となることは、皆

さんはすでに十分に理解されている、と思います。そして、もうお分かりだ
と思いますが、学問はそれを培うのに大いに役立ちます。加えて、研究活
動は、自分の研究成果を人々にわかってもらうための学会・研究会での
発表や論文・レポート作成で一区切りとなります。つまり、学問は対話力
のベースを養うのみならず、対話力自体の訓練にもなるのです。

最後に、創造性。自分が広く、深く学んできた知識を基盤として、自由
な発想に基づき、新しいものを作っていく。これは、まさに学問で行う過程
そのものです。急速な進化を遂げている AI ですが、この創造性において
は、人間を超えられないのではないかと私は思っています。仮に人間を
超えるとしても、それはまだずっと先だと思います。ただし、繰り返しにな
りますが、それには情報を自分の頭でしっかりと見極め、それに基づいて
自立的、創造的に考えを構築することを、皆ができるようになっていること
が前提です。そうである限り、私たちは AI を上手に利用していけるでしょ
う。反対にそうしなければ、私たちはもしかするといずれ AI に支配されて
しまうかもしれません。

こうしてみると、大学で学問を行っていればいろんなことに役に立つ。
いわば、学問は最高の道具である。そんな風にも聞こえますが、私はそう

とは思いません。私の大学・大学院時代、そしてその後の30年の衛生学者としての研究生活のなかで一つ言えるとしたら、それは、学問はとても楽しく、わくわくするものである、ということです。学問はいわゆる「勉強」とは異なります。

自分の好きな分野の、様々な事柄を学ぶなかで、疑問に思ったこと、あるいは、この現象にはもしかしてこんな真理が隠されているのではないかと浮かんだ仮説、そうしたものを自分自身の力で解明すべく努力していく。自らの知的好奇心を満たし、高めていく。実に、刺激的で楽しい作業です。先輩たちもゼミや大学院で、一度その楽しさを知ると、皆それに夢中になって取り組みます。そして、そんな楽しい時間が過ぎ、学問によりとても豊かな大学生活を満喫して、その結果として、先ほど挙げた次の時代を生きていくのに必要な能力がいつの間にか備わっている…というのは、とても素晴らしいと思いませんか。

皆さんの中には、資格を取る、採用試験に合格する、あるいは希望の就職をする、そのために本学に入学された人も多いと思います。非常に多くの先輩がそれをかなえていることをご存知の方も多いでしょう。そうした皆さんはぜひ資格を取ってください。希望の就職をかなえてください。

私たちは、これまで先輩たちに行ったのと同じように、できる限りのお手伝いをします。そのうえで、皆さんに願うのは、学生生活の中で、ぜひそうした勉強だけにとどまらず、それぞれの分野で学問を深めていただきたい。あるいは、せっかく 10 学科ある大学に来たのだから、自分の学科と違う分野の学問にも是非触れていただきたい。そして、大学生活を本当の意味で充実したものにしてください。

神戸女子大学には、それを可能とする、教員、設備、環境が整っています。そうした環境の中で、これから皆さんひとりひとりが素晴らしい学生生活を送られることを祈念して、私の式辞といたします。